

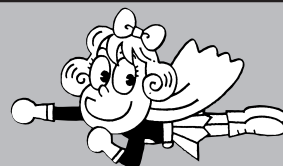


東京の会通信

No.206

2009年6月1日号
(毎月1回1日発行)

発行：公的骨髄バンクを
支援する東京の会
〒160-0005 東京都新宿区
愛住町23 Woody21-9F
TEL：03-3354-6377
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:bmt@246.ne.jp

定価 100 円

「東京の会裁判を応援する集い」 盛大に開催！

東京の会は、骨髄移植推進財団前常務理事 堀之内敬氏より、東京地方裁判所に提訴され、名誉毀損で1,000万円の損害賠償とホームページ上の「東京の会通信」掲載記事の削除を請求されています。訴状の内容は、何ら根拠のない言いがかりであることを昨年より皆さんに東京の会通信にて報告し、その後応援メッセージや裁判費用の貴重なカンパを多数いただいています。

でもまだまだ「なぜ裁判などが行われているのか？」に疑問を抱く方々もいらっしゃると思います。私たちは、現在起きている事実をきちんと報告し、ボランティア団体の言論の自由を奪いかねないこの訴訟を正しく認識してもらうため、全国協議会に対し、東京の会裁判を全国協議会加盟の各地団体に報告する機会を作っても

raitaiと要請しました。そしてこのたび、全国協議会主催の「東京の会裁判を応援する集い」が、4月25日の銀座教会登録会終了後、近くの会議室で開催され、約50名の参加がありました。当日の様子を報告します。

まず、主催者を代表して全国協議会の中野勝博理事長が「裁判の不当性を全国の仲間とともに正しく理解し、東京の会が最後まで闘っていくことを応援しよう」と挨拶しました。

続いて弁護士の宮田信男先生から、裁判の中間報告がありました。宮田弁護士は、「東京の会通信の記事は、国会答弁や新聞記事の内容に言及したもので、本来ならそちらを相手取って裁判を起こすのが筋だ。自分に都合の悪い記事や悪い評判が立つのを気にしているのではないか。ボランティアが主体となって作り上げた骨髄バンクの常務理事だった人がボランティア団体を訴えるとは言語道断だ」などと述べられました。

次に、財団を不当解雇で訴えている元財団職員の山崎裕一氏から関連裁判報告があり、山崎氏は「私の裁判は、堀之内敬氏が財団内部でおこなっていた『パワハラ・セクハラ』と思しき行為に対する報告書の提出をめぐって発生した問題であり、判決の結果が東京の会裁判にも影響するだろう」と指摘しました。

東京の会からは、顧問の野村正満氏が「これは名誉毀損の名を借りた口封じ、ボランティア組織に対する敵対行為だ。全国のボランティアが同じ状況に追い込まれる可能性があり、絶対に負けるわけにはいかない

(次ページへ続く)



日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (平成21年4月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	336,609	49,573	27,473
4月登録分	2,251	355	223
4月抹消数	719	87	—
実質登録増	1,532	268	—

患者とドナー登録・適合状況(4月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	427,477人
ドナー登録抹消者数(累計)	90,868人
有効二次検査済ドナー数	336,286人(4月1,557人増)
二次検査適合ドナー数(累計)	195,999人
実質登録患者実数(現在)	2,552人(国内1,347人)
HLA適合患者数(累計)	22,368人(患者累計数の81.4%)
非血縁移植実施数	10,435例(4月実施80例)

裁判である」と東京の会の立場を明確に示しました。

当日は多くの方が駆けつけてくれましたが、その中で全国協議会の初代運営委員長だった宮戸征美氏から、応援メッセージをいただきました。宮戸氏は「とにかく現在のように骨髓バンク内部で多くの問題を抱えているようでは患者さんの今後のためにならない。ぜひがんばってほしい」と力強く支援を約束されました。

特別講演では、ジャーナリストの若林亜紀氏から、実体験に基づき、天下り官僚のあきれた行状が生々しく語られました。続いて、パネルディスカッション「東京の会通信と骨髓バンク運動の言論の自由を考える」が行われ、野村氏を司会に、宮田弁護士、宮戸氏、若林氏、さらに元厚労省の方も加わり、骨髓バンクに天下りは必要か、ボランティアへの抑圧をどう跳ね返すかなどについて、熱く語りました。

続いて、神戸の会の名川さんから「ボランティア団体を訴えるという暴挙は許せない。東京の会のパワーを発揮して、負けなようにがんばって欲しい。心から応援している」と暖かいメッセージをいただきました。

最後に東京の会を代表して三瓶代表から「本日応援メッセージをいただいた宮戸さん、名川さんをはじめ、全国のボランティアから応援の声が寄せられ、裁判費用にも多くのカンパがあった。心から感謝したい。なんとしてもこの裁判を勝ち抜き、みんなで喜び合いたい」と決意表明を行いました。集いの終了後は交流懇親会が行われ、35名が大いに盛り上がりしました。

東京の会は、今後とも全国のボランティアの仲間経過を報告するとともに、東京の会メンバーが一丸となって裁判に向け闘います。今後とも応援よろしくお願いいたします。

銀座教会でドナー登録会を開催

4月25日、東京の会の年中行事となった銀座教会での集団登録会が行われました。この日は最高気温11度という寒い雨の日で、土曜日だというのに地上には人通りが少なく、受け取ってもらえないGIFT OF LIFEは傘の下から差し出すたびにしんなりと濡れていきます。

●5名の登録者に感謝

銀座での登録会は、当日の呼びかけが登録人数に大きく影響するのですが、呼びかける相手がいないのでは効果も半減です。私は午後から参加したのですが、午前中の登録は1名だったと聞き、すぐに呼びかけ隊に加わって声を張り上げました。手は冷たくなるズボンも靴もびしょびしょでしたが、終了時刻までみんなで立ち続けて結果は5名。今までで最低の数字です。

しかし、登録して下さった5名の方には本当に感謝したいと思います。また、GIFT OF LIFEを受け取って下さった方たちにも、きっと骨髓バンクのことを心に留めていただけることでしょう。それがいつか登録に結びつくのだと信じています。お疲れ様でした！

(福永達子)

●雨にも負けずに呼びかけ

銀座教会登録会はいにくの雨になり、それまでの暖かさが嘘のような寒い日でした。人通りもまばらですが、それでもみんな大声をあげてドナー登録を呼びかけました。ズボンの裾が濡れて冷たさが身にしみます。

全国協議会初代運営委員長の宮戸征美さんがおみえになり、今年で8年目になる銀座での登録会について、献血並行はできないかと尋ねられました。これからの方針を考え直す時が来ているのかもしれません。

その後は「東京の会裁判を応援する集い」に参加し



て、有意義なお話を聞きました。夜の交流懇親会までの長い一日を、思いを同じくするボランティアの仲間たちと楽しく過ごすことができました。（大塚礼子）

●いつかコーディネーターとして

朝から冷たい雨の中、有楽町駅に着くと行き交う人もまばらで不安がよぎりました。午前中は説明員を担当しました。昨年ドナーになられた青年が説明員の実地研修で参加されていて、コーディネーター研修中の私はドナー候補になられた時のお気持ちをお聞きすることができ、有意義な時間となりました。

あっ！ゆっくりお話が何えたということは説明員としてはヒマ…!? でも真冬並みの寒さとどしゃ降りの中での声かけやチラシ配りが功を奏し、5名の登録者がありました。

この5名の方といつかコーディネーターとしてめぐり合うことがあるかもしれません。ドナーのお気持ちに寄り添えるようなコーディネーターを目指したいと思います。（星野道子）

東京の会2回目の植樹会は東大医科研で

「骨髄バンク移植1万例、さい帯血移植5千例 ありがとうキャンペーン」の記念植樹を4月22日午後3時から、東京大学医科学研究所付属病院で行いました。東京の会としては聖路加病院に続いて2回目の植樹となります。当日は天候に恵まれ、4月とは思えないような暑さでした。植える木は第1回と同じくフクロクジュ（福祿寿）という八重桜です。

午後3時、病院関係者や元患者、ボランティアなど約20名が出席して植樹会が始まりました。まず全国骨髄バンク推進連絡協議会副会長で、東京の会顧問でもある野村さんから趣旨説明がありました。今回の移植件数の達成は喜ばしいことではあるものの、今後ともさらなる移植制度の充実に向け、各関係者が努力していかなければならないということを再確認しました。

続いて、東大医科研を代表して血液内科の東條教授からご挨拶をいただきました。東大医科研で骨髄移植が始まってちょうど四半世紀が経ったそうで、病院にとってもちょうど記念すべき時期だったようです。現在の輝かしい移植成績も各医師の方々のご尽力の賜物ですし、これからもさらなる医療の向上に向け努力する

という言葉葉を心強く感じました。

その後、植樹に移り、病院関係者、骨髄バンクドナー、骨髄移植やさい帯血移植を受けた元



植樹する医科研の山下院長



全員で記念撮影

患者さん、ご家族、さらには来週退院が決まっている患者さんの代理で主治医の先生が、苗木の根本にスコップで土を掛けました。最後は記念撮影で締めくくりました。

植えられた八重桜の前には、以下のようなプレートが設置されました。「このサクラは、骨髄バンクを通じて移植を受けた方が1万人に、さい帯血バンクを通じて移植を受けた方が5千人に到達したことを記念し、また、移植を必要とするすべての患者さんの快癒と社会復帰を祈念して植樹されたものです」

東大医科研の門をくぐると、緑豊かな木々が私たちを迎えてくれます。そこには元々植えてある八重桜が何本か咲いていました。伝統を感じる1号館を抜けた新病棟入り口の左手には、今回植えた福祿寿があります。今後、東大医科研を訪れた際には、いろいろな場所を楽しめるようになるでしょう。総合研究棟と1号館の間から差す春のやわらかな西日を受けながら成長していく福祿寿のように、骨髄バンク、さい帯血バンク事業のさらなる成長を願ってやみません。

(保居範昭)

6月20日は東京の会の定期総会です

東京の会の1年間の活動報告と活動方針を確認する定期総会を、6月20日（土）午後1時から、西新宿の全労済東京会館で開催します。会員の皆さま、ぜひ参加をお願いします。

また、総会後は、闘病中の患者さんに最新医療情報等を提供する医療講演会を開催します。患者さんやご家族の方にも声かけをお願いします。

なお、会場の地図や医療講演会の内容など、詳細については同封のチラシをご参照ください。

日時：2009年6月20日（土） 13：00～13：50

会場：全労済東京会館（東京都新宿区西新宿7-20-8）

議題：2008年度活動報告・2008年度会計報告

2009年度活動方針・宣言・役員改選

記念医療講演会（14：00～17：00）

①講演Ⅰ：「難治性血液疾患治療の最前線」

講師：東條有伸先生（東京大学医科学研究所教授）

②講演Ⅱ：「患者会から患者学」

講師：田中祐次先生（東京大学医科学研究所特任助教）

③患者交流会

助けてあげたい、ただそれだけ

黄木 奈々絵 (22歳)

私は去年の夏、骨髄提供をしました。ドナー登録をした時から、提供したい、と思っていました。一致の通知が来たとき、はしゃぎながら母に話したのを覚えています。でも、未だに提供をした実感はありません。患者さんと会うこともできず、声をかけてあげることもできません。移植を終えて、復帰していく姿を見ることも、結果を知ることもできません。しかし、命の大切さや人を感じる気持ちなど、たくさんのことを学びました。

会社を休まなければならない、何度も検査に足を運ばなければならない、採取日程が変わるかもしれない。ドナーにもさまざまな障害があります。正直、すべてのことに不安でした。入院経験がなく、全身麻酔をして、後遺症が残るかもしれないし、私が必ず元気に退院できるとは限らないからです。家族にはどうしても無理を言ったこともあり、余計な心配はかけたくなくて、大丈夫、と笑顔でふるまっていました。

検査に行き、いろいろな話を聞き、何もかもがはじめてのことで、わからないことがわからない状態でした。しかし、今、私が提供を断ってしまったら患者さんは亡くなってしまうのではないかと、断ったら絶対に後悔する、そんな気持ちが私を突き動かしました。名前も顔も知らなくていい、ただ助けてあげたい、ただそれだけでした。無事に提供を終わらせるためにも、事故や病気にならないよう体調管理には気を遣いました。

採取当日、手術室に向かう私を見送りながら、母は「これで最後かもしれない、がんばってきてね」と初めて不安を口にしました。私は母の不安に

も気づかず、心配をかけてしまったと思いました。

術後、母は「ありがとうございました」と担当医に頭を下げ、笑顔で私を迎えてくれました。私もコーディネーター、担当医、提供にかかわったすべての人に、ありがとうと言いました。不安もなく採取に臨むことができたのも多くの人が支えてくれたからです。

私は今回、周囲の人が骨髄提供にあまり興味を示さず、知識や理解があまり感じられないように思いました。提供前はもちろん私もその1人でした。今の私には、自分の体験を話し、周囲への理解を訴え、伝えていくことが大切だと思いました。

自分さえよければいい、何の得がある、そのようなことを思っているのではなく、みんなが助け合う世の中になればいいですね。私が今回提供をしたのも、えらい、すごいと言われるけれど、たまたま骨髄が一致したからで、誰にでもできることです。次、一致の連絡が来たら迷わず提供をします。本当にいい経験ができました。

(埼玉県在住)



母親(右: Voice筆者)と

東京の会10周年記念出版

『もう一人の私』

患者とドナーからのメッセージを中心に、骨髄バンクの10年を東京の会通信の視点でつづる評判の一冊。

本屋さんでは取り扱っていません。

あなたもお読みください。



お申し込みは

東京の会へ

売価: 1500円

送料: 300円

10冊で12,000円(送料込)

【適合通知】

「すごいよね。奇跡だよね」「私の骨髄と一致する人がいたんだよ」骨髄バンクから『骨髄適合のお知らせ』と書かれた手紙を握りしめ、今にも踊り出しそうなくらいに、はしゃぎ喜ぶ娘。

「20歳の記念に『骨髄バンクに登録』してきたよ」と誇らしげに話していた日から1年。まさか、娘のところに骨髄適合のお知らせが来るとは…。「登録しても、なかなか適合しないから、連絡が来ない人が多いみたい」と知人から聞いていましたし、娘から骨髄バンクに登録したと聞いた時も、他人事のように軽く考えていた私は、急に『不安』の二文字が頭に浮かび、素直に娘と一緒に喜ぶことができませんでした。

この日から、娘と私の長い長い数ヶ月が始まったのです。何しろ、何もかもが初めての事ですし、近所や知り合いに骨髄を提供したという人は誰もいません。『不安』の気持ちは増すばかりでした。『不安』の気持ちを聞いてほしくて、同じ市内に住む、大谷貴子さん（骨髄バンクを立ち上げた方です）に連絡してみました。大谷さんの丁寧な説明もあり、私の『不安』は薄れていきました。

大谷さんは、娘にも「怖いとか、嫌だっと思うなら、今すぐ断っていいんだよ。無理しないでね」と、強要したり、励ましたりすることなく話して下しました。「大丈夫です。がんばります」娘は力強く即答していました。娘の気持ちは既に骨髄を提供すると決めていたようです。

【父親の猛反対】

1ヶ月後、娘は確認検査を受け、その結果ドナーとして選定されたのですが、娘の意思だけでは提供できず、両親の理解と同意が必要でした。「今、私が骨髄をあげれば、患者さんは生きていける。骨髄をあげなかったら患者さんは死んじゃう。私は後悔しながら生きていくのは嫌。私は骨髄を提供したい。」娘は強い意志を持っていました。

私は娘の意思を尊重してあげたいと思い同意したのですが、父親は猛反対。「嫁入り前の娘の体に傷がつく。家族や親戚が病気で骨髄を提供するなら仕方ないけど、顔も名前もわからない他人に提供するなんてとんでもない。何の得があるんだ。自己満足のためか」と、まくし立てるように反対したのです。「もし弟が患者さんと同じ病気だったら助けてあげないの？お父さんだって必死にドナーを探すでしょ？私が提供する患者さんのお父さんもお母さんも必死なんだよ。私は助けてあげたいの」と、娘は父親を説得したのです。「わかった」父親は渋々同

意しました。父親の態度に深いため息をついた娘でしたが、一度決めた意志を曲げることはありませんでした。

【採取までの日々】

後日、娘と私は、ドクターとコーディネーターから説明を受け、最終同意書にサインしました。「今から患者さんに間違いなく骨髄移植が受けられると知らせます。患者さんは前処置という苦しい治療に入ります。ドナーさんは、骨髄提供の日までけがや病気をしないように生活して下さい」その説明に、改めてドナーの責任の重さを痛感しました。患者さんのご両親の気持ちを考えたら、何がなんでも娘の理由で移植中止にだけはしたくない。母親として重いプレッシャーを感じたのは言うまでもありません。

娘の骨髄採取日まであと1ヶ月。娘は私の心配をよそに、アルバイトに行き、友達と遊び歩き、車の運転を止めることなく、普段と同じ生活をしていました。深夜、寝顔を見るとホッとする毎日。咳をすれば風邪をひいたのかと心配し、食欲が無いと言え、何か食べさせないと体力が落ちると心配して…患者さんのご両親は、私以上にドナーである娘の無事を祈っているはず…そう思いながら、ドナーの母親として、この1ヶ月は本当に緊張の糸が張りつめていました。

【採取当日】

そして、無事迎えた骨髄採取当日。娘はいつも以上に素敵な笑顔で「いってきまーす」と手を振って、手術室へ。私は「いってらっしゃい」と見送ったあと、ただただ無事に終わることを祈るしかありませんでした。

偶然ですが、患者さんの元へ骨髄液を届けるための小さなクールボックスを大事そうに抱えた患者さん側の病院関係者の方にお会いしました。「どうぞ、娘の骨髄液を一滴もこぼさず、患者さんに無事に届けてあげて下さい」顔も名前も知らない患者さんですが、待ちに待った移植の日。無事に移植が終って欲しいという私の気持ちから出た言葉でした。

数時間後、担当医から「無事に終わりましたよ。」と知らせを受け、緊張していた全身から力が抜けていくのがわかりました。麻酔からまだ覚めていない娘の傍に付き添いながら、「娘はがんばりましたよ。今度はあなたの番。さあ、娘のボタンをしっかり受け取って」「がんばって！！がんばって！！」

私は患者さんの骨髄移植が無事に終わるよう神様に祈り続けました。今、『命のバトンリレー』が、多くの人達の力で行われている、無事に娘がこの日を迎えられた、患者さんのご両親は今どんな思いを

しているのだろう…複雑な思いが込み上げてきて涙が止まりませんでした。

目を覚ました娘は、口には出しませんでした、『不安』と戦っていたのでしょう。大きく深呼吸をしたあと、「終わったね」とつぶやきました。満足そうな笑顔は、今も忘れられません。

【娘を誇りに思う】

娘は、退院した日から現在に至るまで、「無理をしないように」という担当医の言葉を忘れ、二十歳代の普通の若者のひとりとして楽しい毎日を送っています。以前の娘は、親に反抗することも、家に寄り付かない時期もありました。この先どうなるのか気にかけていましたが、優しい大人に成長していました。この骨髄提供を通して、『命の大切さ』『人の優しさ』を肌で感じたはずです。娘には、さらに素敵な大人になって欲しいと思っています。

陽の当たることのないボランティアなのだと理解してドナーになった娘を、「怖い」とか「嫌だ」とか弱音を一度も口にしなかった娘を、母親として誇

りに思います。そして、娘と移植を受けた患者さんのこれから先の人生に、たくさんの幸せが訪れますように、と心から祈っています。

【命のバトンリレー】

骨髄提供を終えた娘の母親として、もっともっと多くの人が『骨髄バンク』を理解して欲しい、ドナー登録して欲しいと思っています。そして、多くの患者さんへ『命のバトンリレー』が行われることを切に願っております。

骨髄提供の採取当日、病院に駆けつけて下さった、大谷さん、森川さん。わがままな娘を最後までお世話して下さい下さったコーディネーターさん。ユニークな会話で緊張した気持ちを和らげて下さった担当のドクター。優しく接して下さい下さった看護師さんの方々。

恵まれた環境の中で、皆さんの温かい言葉に励まされ、娘はドナーとしての大役を無事終えることができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。皆様、本当にありがとうございました。

(埼玉県在住)



新会員紹介



羽藤あゆみさん

2月からお世話になっております。昨年親族が「急性白血病」と診断され、今年骨髄バンクを通じて、ドナーの方より移植を受けました。最初は周りに同じ境遇の人がいなかったことが心細くて、「おりおりの会」に参加させていただきました。今は何かしらお返しをさせていただきたいと思い参加しています。

会では年齢はまちまちですが、皆さん仲良くやっています。素晴らしい方々ばかりで、本気で会の活動に取り組んでいらっしゃるのが伝わってきます。「love is action」を身をもって実践されています。私は入って間もないですが、自分にできることは何かを考え、これからもご協力させていただきたく思います。

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2009.4.16～2009.5.15)

大貫洋二さん 10,000円／武智美和子さん 10,000円／和泉屋正敏さん 3,000円／石坂直美さん 2,000円
大塚礼子さん 12,000円／笠間義男さん 4,000円／伊佐三津子さん 20,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

東京ドナー登録会予定(6月)

6月3日(水)赤羽駅東口(北区)
6月10日(水)国際ビルディング(中央区)
6月12日(金) JR小岩駅(江戸川区)
6月13日(土)日赤看護クロアジュール(渋谷区)

6月16日(火)福生市役所(福生市)
6月20日(土)東小岩小学校(江戸川区)
6月25日(木)三茶シャレナード(世田谷区)

患者家族電話相談
白血病フリーダイヤル

や ま い こ く ふ く
0120-81-5929
毎週土曜日10:00～16:00

※第2・4土曜日は血液専門医も相談に応じます。

※医師に言えない悩み事などもどうぞ。

山崎裁判 判決言い渡しが延期

（助骨髄移植推進財団（以下財団という）を懲戒解雇された山崎裕一氏が、解雇を不当として、労働契約上の地位の確認と判決にいたるまでの給与一時金の支払、慰謝料（損害賠償金）の支払を求める訴訟を財団に対して起こしました。その裁判の判決が、平成21年5月15日東京地方裁判所において出される予定でしたが、裁判所の都合で6月12日に延期されました。

私たち東京の会は、骨髄移植推進という血液難病患者の救命にかかわる使命を担う財団がこのような不当な行為をして欲しくないという立場から、裁判を見守ってきました。

発端は平成18年9月26日付山崎氏が財団を懲戒解雇されたことに始まりました。当時常務理事であったH氏をめぐって起きていた、職員の相次ぐ退職、ハラスメント（パワハラ・セクハラ）と思しき行為に対し、総務部長の職にあった山崎氏が職責上、事情聴取等の調査を行って報告書をまとめ、財団の運営最高責任者の正岡理事長に提出しました。財団は常任理事S弁護士を委員長とする内部調査委員会を設置して内部調査を行い、ハラスメントの事実はなかった、原告の報告書は事実に基づかない誹謗中傷であるとの結論を出し、懲戒解雇の主たる理由としたのです。

さらに、山崎氏が総務部長として情報管理を怠り、情報が外部に漏れ新聞報道に繋がり財団の対外信用を損ねたこと、自分の人事異動について外部に漏らしたこと、業務上の怠慢により契約を遅滞させたこと、業務指示への不服従、会議の席上の暴言などが理由として列挙されました。

一方、監督官庁の指導により、調査の客観性を保証するため外部調査委員会に委嘱して、外部の弁護士3名による調査も行われました。内部調査報告書、外部

調査報告書ともに開示されていないので、正確なことは不明ですが、外部調査報告書には「パワハラ・セクハラと受け取られかねない行為があった」とする報告が含まれているのではないかと思います。内部調査においても外部調査においても、そのような事実は全くなかったとする公式発表が財団から行われたことに對し、外部調査を担当された弁護士から事実と異なるとして、調査費が財団宛に返されたと聞き及んでいます。

懲戒解雇は従業員・職員にとって最も厳しい処分であり、懲戒に値する事由を起こした時に、その事実の重さに対応して訓戒、減給、出勤停止などの処分が段階的に行われ、それにもかかわらず、懲戒に値する行動が改められない場合に、その事実を明示して行われる処分なのです。原告は解雇申し渡しを受けた時にも、裁判を通じて懲戒に該当する具体的事項の明示を求めてきましたが、明確な回答はなされていないことです。はじめに懲戒解雇という結論があって、その事由は後からとってつけたような感じがしないでもありません。

ハラスメントがかかわる内部告発事件では、組織の防衛本능が働き、特にハラスメントの当事者が組織のトップにある人物の場合には、ハラスメントの事実は徹底的に否定隠蔽され、当該人物は勇退の形で辞めて、告発者もバランス上論旨解雇を迫られ、拒否した場合には懲戒解雇される事例が多くあります。

山崎裁判は、財団によって、このような筋書きにのせられた原告が、それを不当として訴えているものです。被告事業主が公益法人であるこの裁判がどのように裁かれるのか注目しなければなりません。

（新田恭平）

東京の会 「6月定例会」 のお知らせ

6月20日（土）午前10時30分より

※6月定例会は総会準備をかねて行いますので時刻が変更になっています。

会場：全労済東京・レインボー会館3階会議室

※新宿駅下車7分（新宿区西新宿7-20-8）

※西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署きらやか銀行の角入ってすぐ右側

※7月定例会予定・7月18日（土）午後5時30分より

7月会報発送 「おりおり」 のお知らせ

7月4日（土）12時30分より

場所：品川運輸・4階会議室

JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分

（品川区東大井2-1-8）

※今お読みになっている「東京の会通信」を1000部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。

※8月「おりおり」予定・8月1日（土）12時30分より

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

編集者 雑記



▼4月26日に「骨髓バンク・さい帯血バンク第4回合同公開フォーラム」が日赤本社会議室で開催されました。この合同フォーラムは、ボランティアを含めた骨髓バンクおよびさい帯血バンクの関係者が一堂に会して、現状の課題と将来的なあり方について、提案や真剣な議論を行う場であり、3年ぶりの開催となりました。

▼フォーラムの前半は、財団、全国協議会、日本さい帯血バンクネットワークの3団体が、この3年間の間にそれぞれがおこなった将来像に関する検討結果を発表しました。後半は、日赤が運営主体となって骨髓バンクとさい帯血バンクを一本化してはどうかなど、将来的な方向性についてパネルディスカッションが行われました。

▼パネルディスカッションで議論された内容は画期的で重要な示唆を含むものでしたが、残念だったのは行政と財団および日赤の代表者がパネリストに加わっていないことでした。現行システムを大胆に見直そうという提案に対してそれぞれがどう考えるかぜひ聞きたかったのですが、とは言え、とりあえず議論のスタートには立てたと思います。

▼この合同フォーラムの実行委員会に財団側の委員が一人も出席せず、企画や準備に影響が出たことは4月号の当欄で触れたとおりです。当日は財団職員が準備や運営にあたっていました、実行委員の一人であり、職員に禁足令を出したといわれている財団の平井常務理事は顔を見せませんでした。

▼同じく財団・全国協議会・さい帯血バンク合同の実行委員会で検討された「ありがとうキャンペーン」においても、平井常務理事が企画にことごとく反対し、3者による開催ができずに全国協議会単独開催となったこと、それを指摘した当欄の記載に対して、同氏が事実誤認を含む個人的反論をマンスリーレポートに掲載したことは、読者もご存じのとおりです。

▼異なる組織が1つの事業を共同して成し遂げようとするとき、立場や意見の違いがあるのは当然であり、率直に議論する中で合意点を見いだす努力をお互いにする必要があります。これは財団とボランティアの関係でも同じであり、財団には批判的な意見にも耳を傾ける姿勢をもっていただきたいと思います。

▼今年度財団の理事・評議員が改選となりましたが、財団の要請に応じて全国協議会が理事に推薦した候補者を財団幹部が不適格と判断し、理事を決める評議員会の理事候補者名簿に記載しなかったことに対して、全国協議会是不公正かつ恣意的な運営がなされたと強く抗議し、財団との関係が非常に険悪になっています。

▼全国協議会が推薦した候補者を不適格と判断した理由については、全国協議会の質問書に対しても、財団は一切明らかにしていません。ただ漏れ聞こえてくるところによると、財団幹部は全国協議会が推薦した人物を相当毛嫌いしているようで、評議員会の場でも誹謗中傷の恐れもあるような個人批判が財団幹部からあったようです。

▼全国協議会が推薦した人物は、財団設立前から長く骨髓バンクのボランティア運動を続け、全国協議会の役員を歴任し、さい帯血バンクとの関わりもある人です。全国協議会としては「自信を持って推薦した」そうですが、歯に衣を着せぬ率直な物言いをする人物であることが、財団幹部のお気に召さなかったのかもしれませんが。

▼一連の動きを見ると、財団幹部は骨髓バンク運動においてボランティア団体が果たしてきた役割を軽視し、批判的な意見や人間を排除しようとしているかのように思えてなりません。財団とボランティア団体は、言いたいことを言いつつも相互に協力して骨髓バンク運動を前進させてきたという歴史を、財団幹部にはもう一度見つめ直してもらいたいと思います。(S)

●お詫びと訂正●

前号の東京の会通信の号数がNo.205のところ誤ってNo.204と記載されておりました。また5月16日の定例会の日程が4月18日になっていました。お詫びし訂正します。

ご寄付と会費の納入、そして絵はがきや書籍・テレホンカードの購入は郵便振替にてお願いいたします。
皆様からの善意をお待ちしております。

ボランティアの運動にも資金が必要です。 東京の会に活動資金のカンパを！

郵便振替口座番号
加入者名義

00100-1-555195
公的骨髓バンクを支援する東京の会